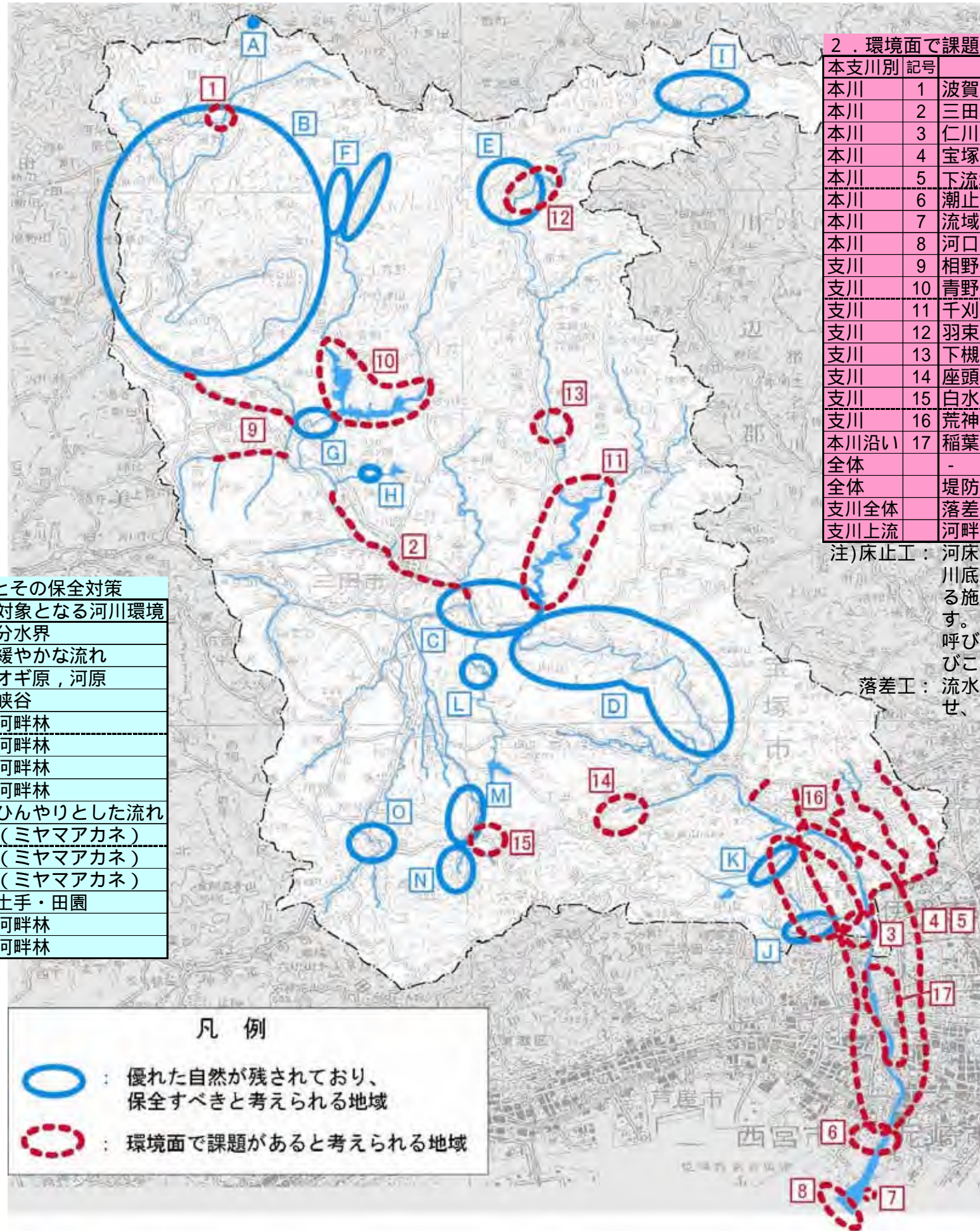


環境ワークショップの討議を踏まえた武庫川環境の総括（案）

06.03.21版



1. 優れた自然環境が残された地域とその保全対策

本支川別記号	地域	対象となる河川環境
本川 A	篠山川・田松川	分水界
本川 B	当野～東本庄付近	緩やかな流れ
本川 C	道場～有間川合流付近	オギ原，河原
本川 D	武庫川峡谷	峡谷
支川 E	羽束川溪谷	河畔林
支川 F	青野川溪谷	河畔林
支川 G	青野ダム下	河畔林
支川 H	福島大池下	河畔林
支川 I	羽束川上流（後川）	ひんやりとした流れ
支川 J	仁川	（ミヤマアカネ）
支川 K	逆瀬川	（ミヤマアカネ）
支川 L	船坂川	（ミヤマアカネ）
支川 M	有馬川中流	土手・田園
支川 N	有馬川上流	河畔林
支川 O	有野川	河畔林

2. 環境面で課題があると考えられる地域と解決策

本支川別記号	地域	めざすこと
本川 1	波賀野川合流点	流量の回復
本川 2	三田市街地～新三田	蛇行や洲の再生
本川 3	仁川合流点付近	礫原の再生
本川 4	宝塚より下流	流量の回復
本川 5	下流域の床止工 ^注 （2号床止工）	水叩工の水深の確保
本川 6	潮止堰	地下水位の維持，防災，利水
本川 7	流域下水	甲武橋での放流
本川 8	河口	干潟の再生
支川 9	相野川	川底を土に
支川 10	青野ダム	外来魚対策
支川 11	千刈ダム	外来魚対策
支川 12	羽束川発電所（小柿）	流量の回復
支川 13	下槻瀬	流量の回復
支川 14	座頭谷	緑化
支川 15	白水峡	オフロード対策
支川 16	荒神川	流量の回復
本川沿い	稲葉荘付近	伏流水，湧水
全体	-	外来種対策
全体	堤防	堤防の緑化
支川全体	落差工	高さの分割
支川上流	河畔林のない所	河畔林の再生

注)床止工：河床の洗掘を防止して河川の勾配（上流から下流に向かっての川底の勾配）を安定させるために、河川を横断して設けられる施設です。床固工ということもありますが、機能は同じです。床止工に落差がある場合、「落差工（らくさこう）」と呼び、落差がないかあるいは極めて小さい場合、「帯工（おびこう）」と呼びます。

落差工：流水の下流エネルギーを落下方向に向けることにより低減させ、河床勾配を緩和させるために、流路を設けること。

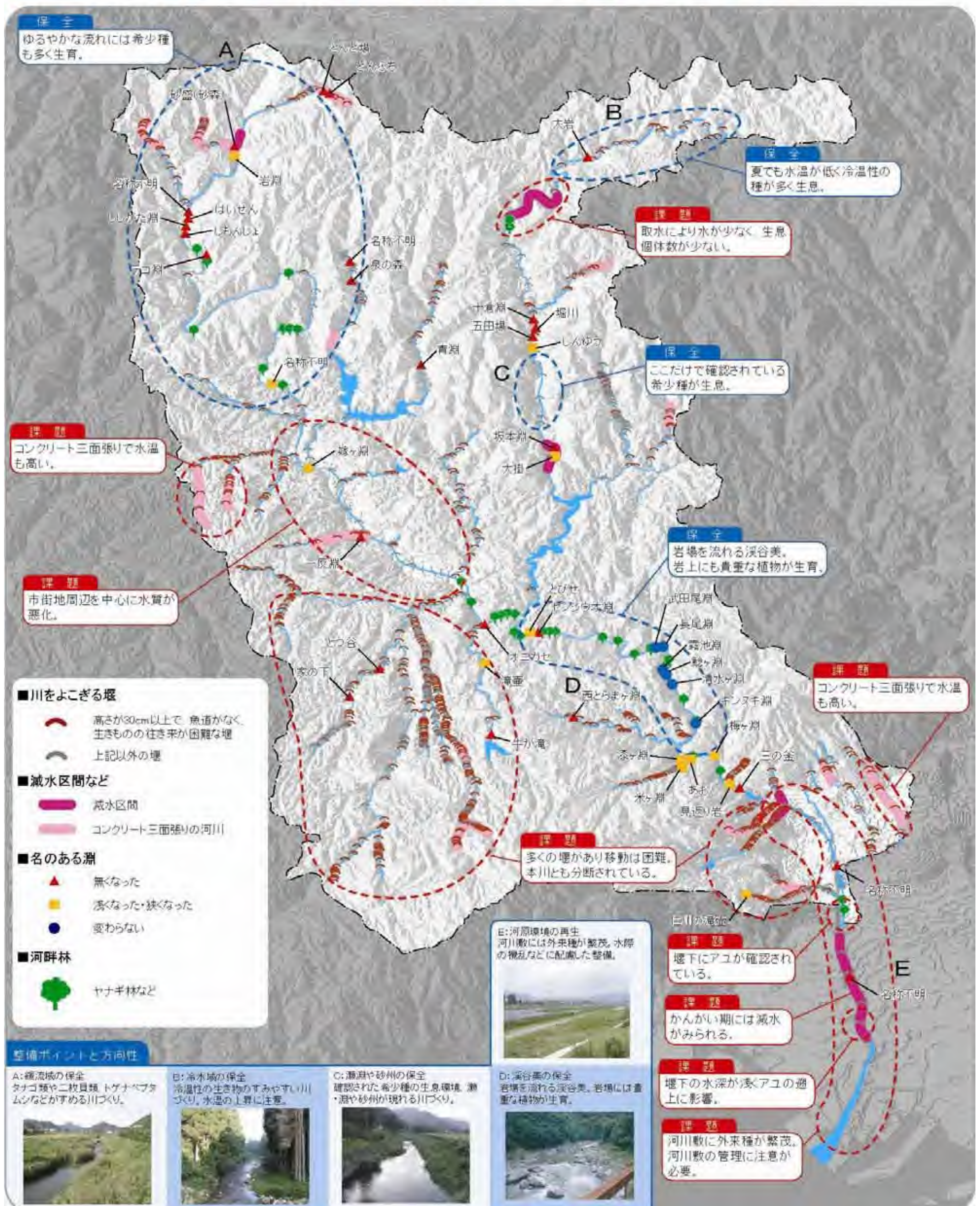
凡例

- : 優れた自然が残されており、保全すべきと考えられる地域
- : 環境面で課題があると考えられる地域

川づくり アトラス

武庫川の健康診断図(案)

～武庫川のかかえる複数の課題を要約した図です。～

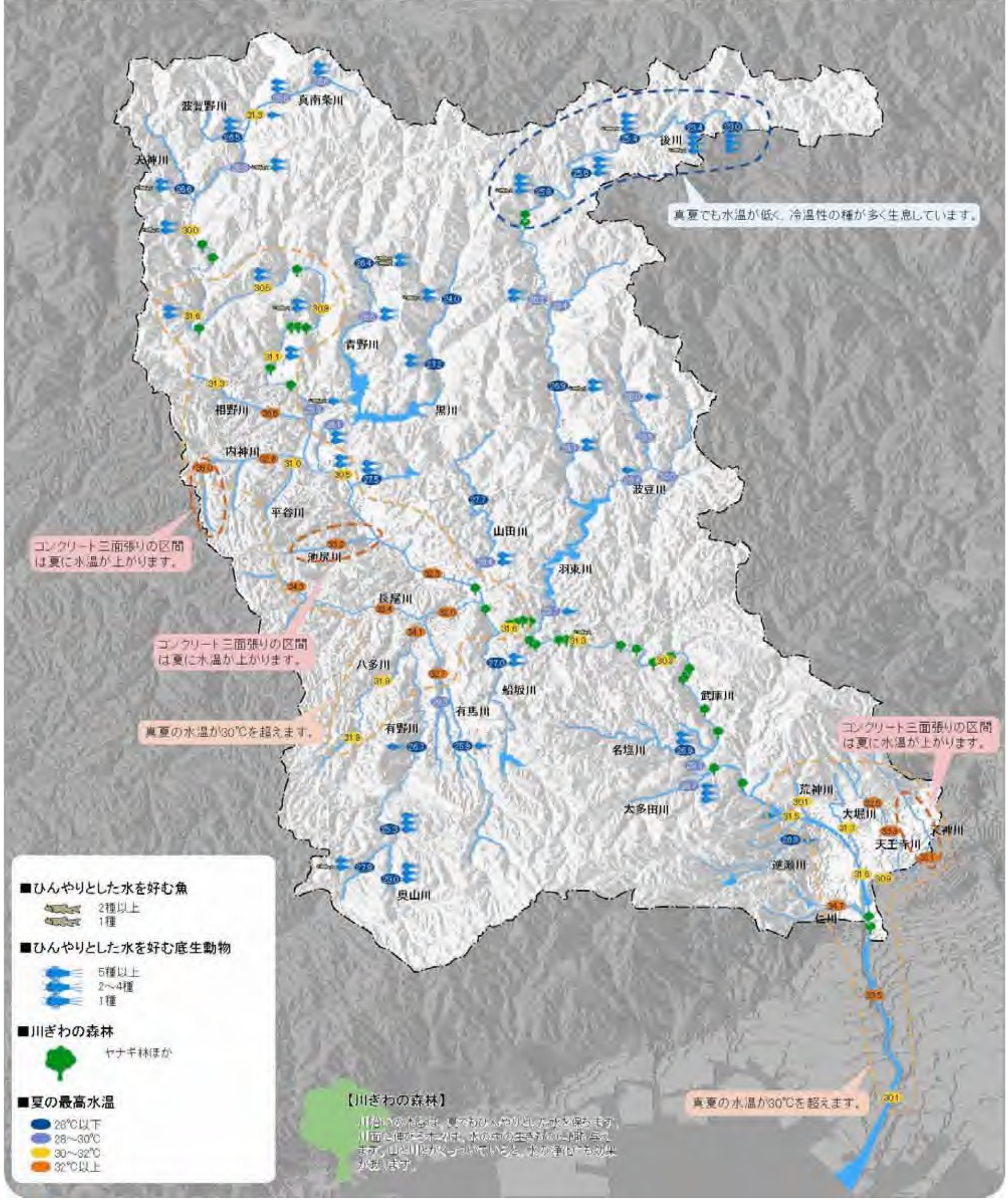


ひんやりとした水を好む生きものたち

冷たい水には、酸素が豊富。

低温性の種

冷温性の生きものは、水がぬるいとゆだってしまいます。真夏でも28℃以下、これが目安です。30℃を超えると、生きていけません。羽束川の上流では真夏でも最高水温が26℃以下！

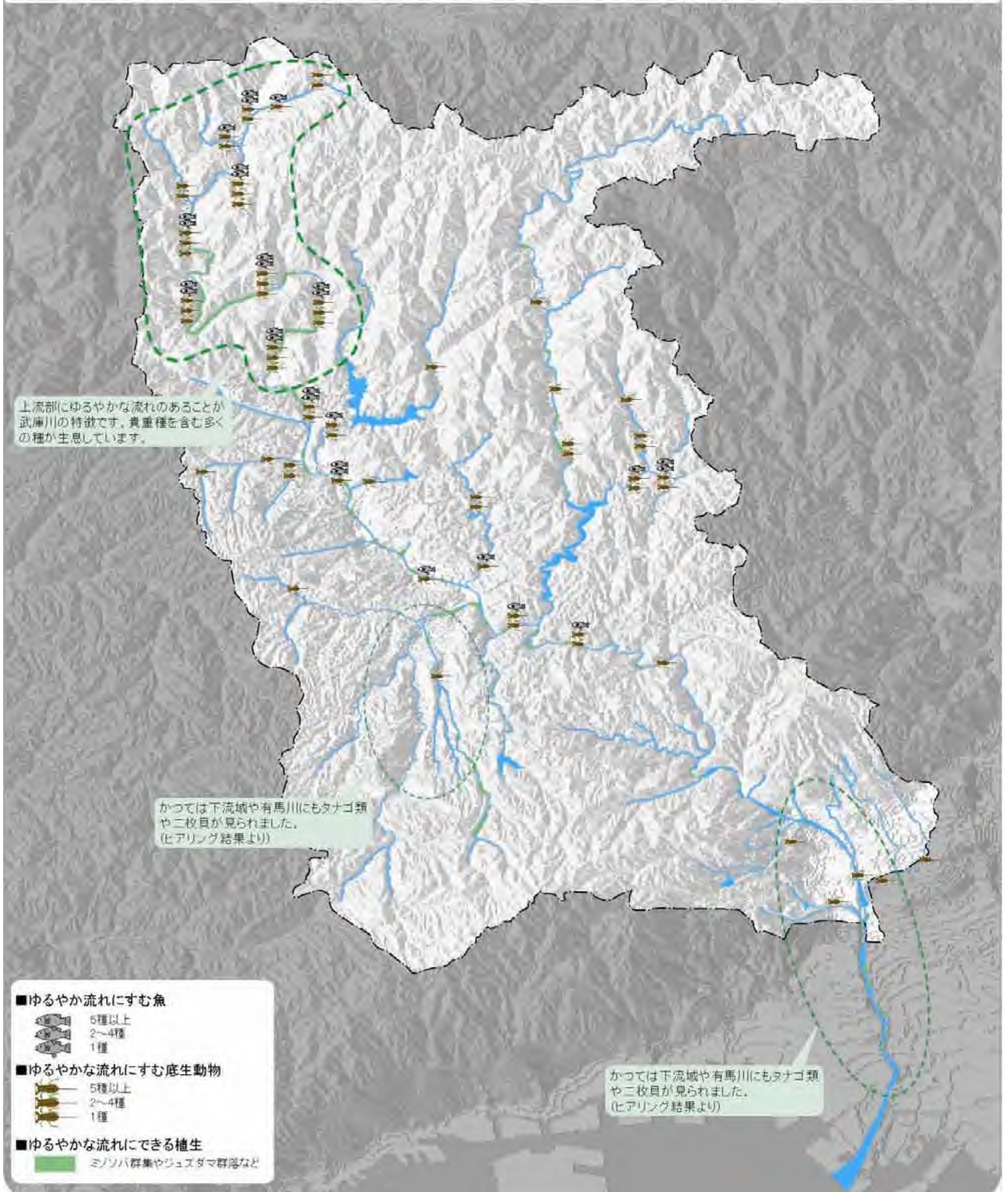


ゆるやかな流れにすむ生きものたち

稚魚や卵が流されにくい。

緩流性の種

流れの緩やかな水辺は、水の中の生きものが大きくなるのに欠かせません。緩流性の生きものは、草付きの浅瀬のある水辺に現れます。武庫川では、上流域に流れの緩やかな水辺がみられます。

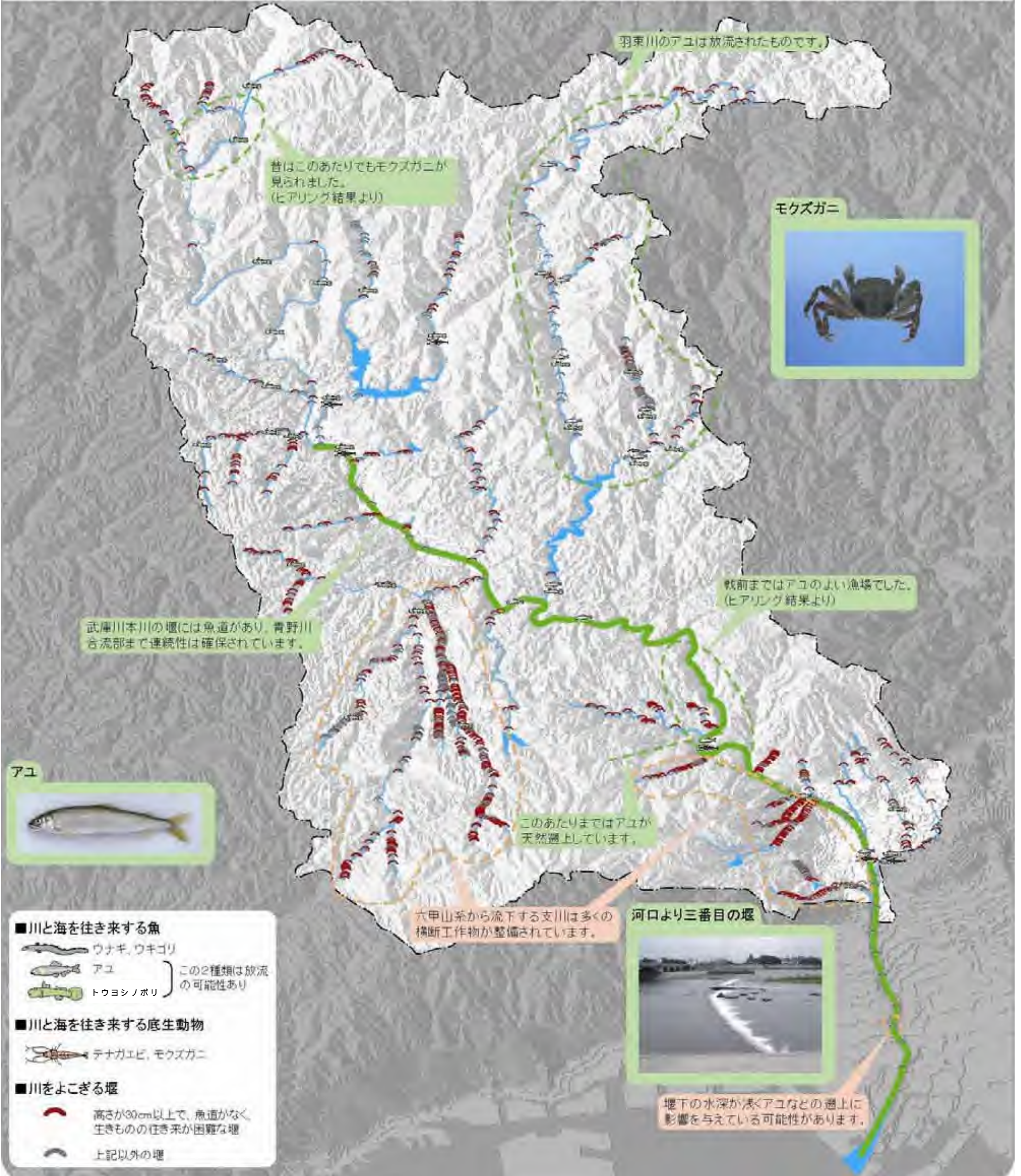


川と海を往き来する生きものたち

川と海、どちらも必要。

回遊性・汽水性の種

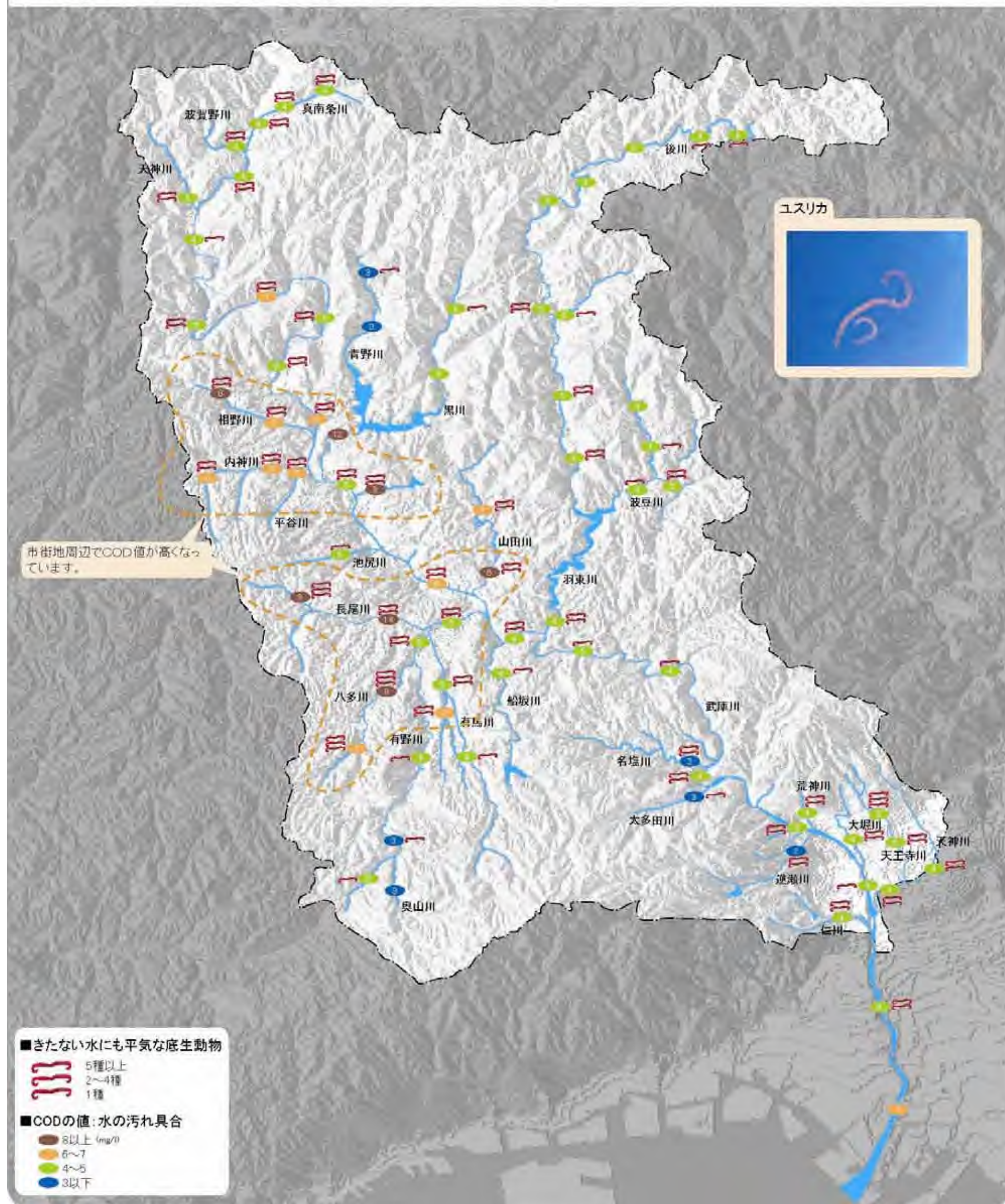
川と海とを往き来するのが、回遊性・汽水性の生きものです。のぼりにくい堰があると、上流に行けません。堰を改修することにより、生きものにとってすみやすい川になるはずです。
河口より三番目の堰がアユの遡上に影響を与えている可能性があります。



きたない水にも平気な生きものたち

ヘドロが堆積、水の中は酸素不足。 **耐汚濁性の種**

水の中の栄養分が多すぎると、浄化がうまく働かず、水は汚れてしまいます。そんな所には、耐汚濁性の生きものがあらわれます。市街地の周辺で水の汚れが目立ちます。

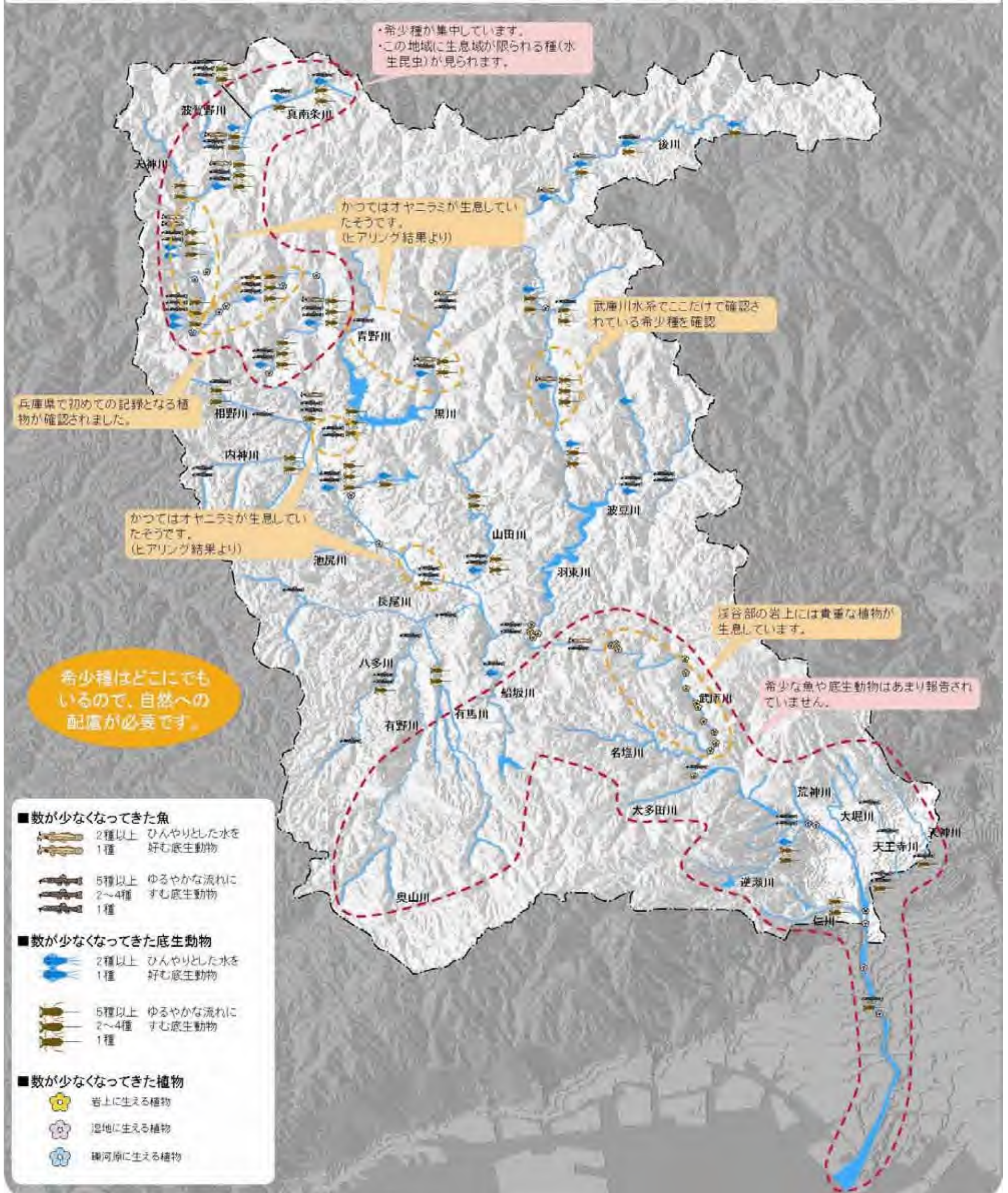


数が少なくなってきた生きものたち

大切な環境を指標する。

希少種

昔はたくさんいたけど、今では減ってしまった。もともと特殊な所にしかいなかった。生きていくのに広い場所が必要。どれかに当てはまれば希少種です。武庫川では上流域に希少種が多く生息しています。

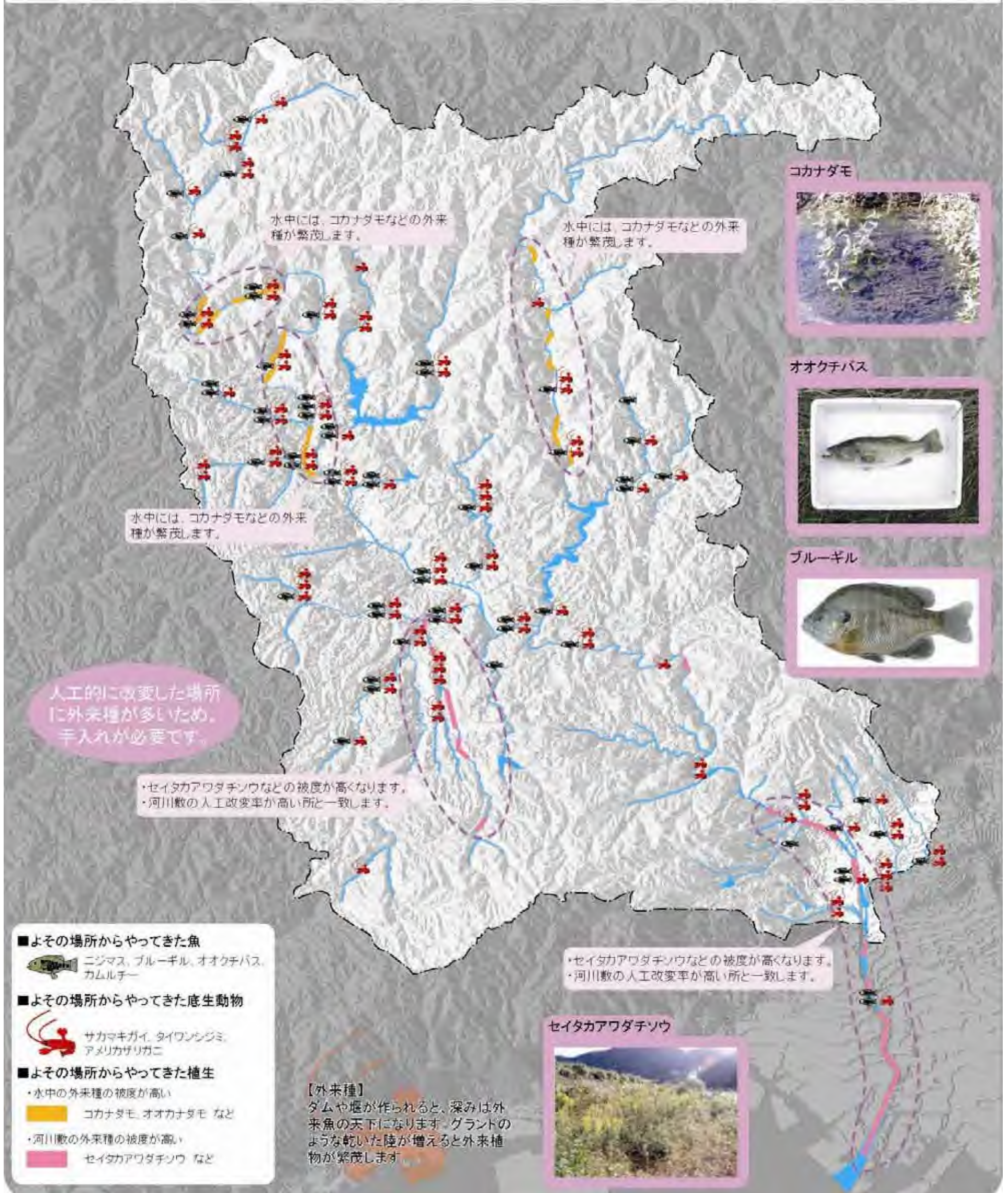


よその場所からやってきた生きものたち

昔からいた生きものを脅かす。

外来種

もともといた生きものにかわって、はびこりだしたのが外来種。持ち込まれたことに加えて、昔はなかった環境が増えてきたのが原因です。武庫川では人工改変された下流域で外来の植物が繁茂します。

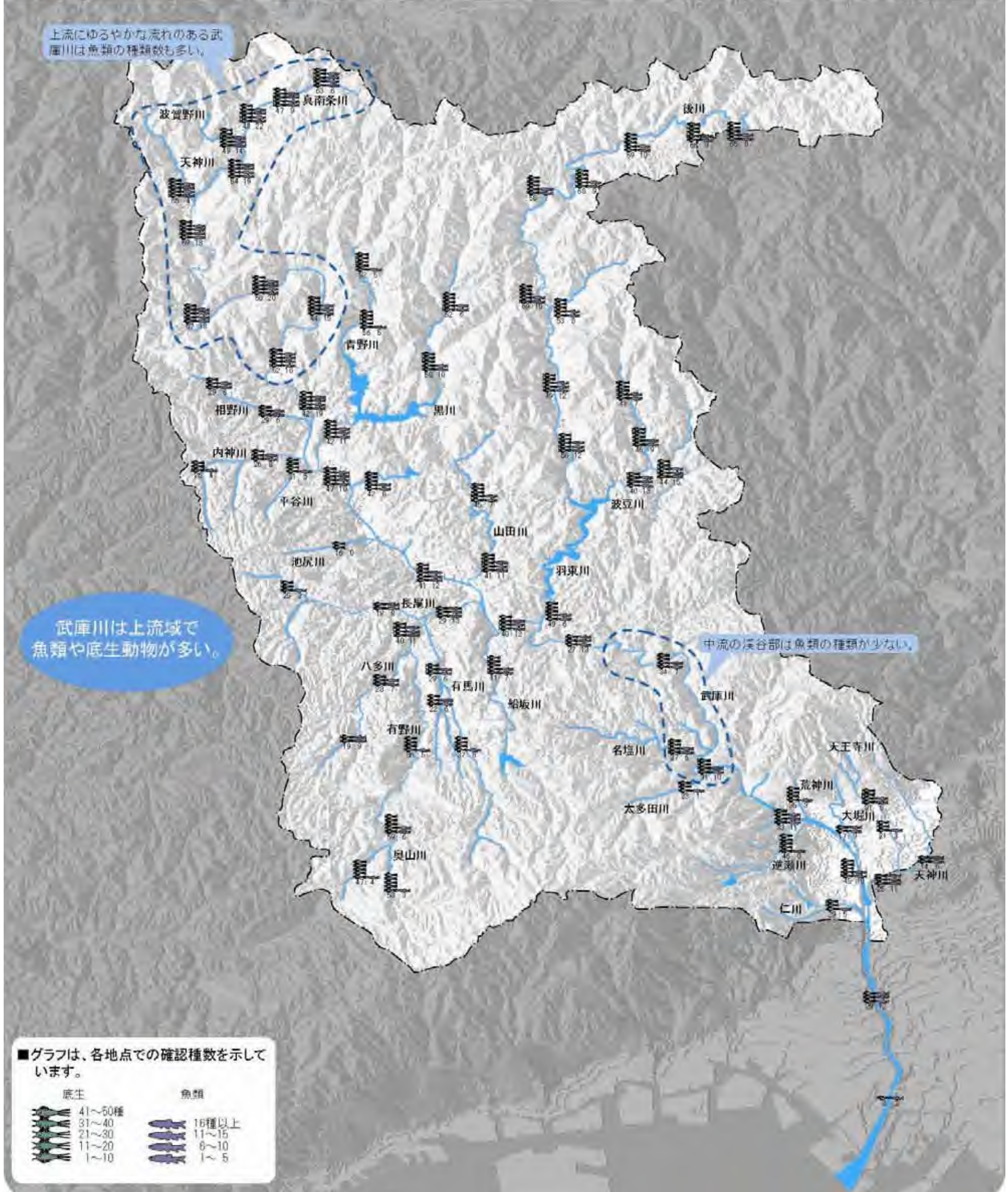


水の中の生きものは、どこに多い？

良好な生態系は多くの生きものを育む。

種多様性

一般的には魚類は下流で種類が多く、底生動物は上流で種類が多い傾向にあります。武庫川では、流れが緩やかな上流域で魚類や底生動物の種類が多くなります。

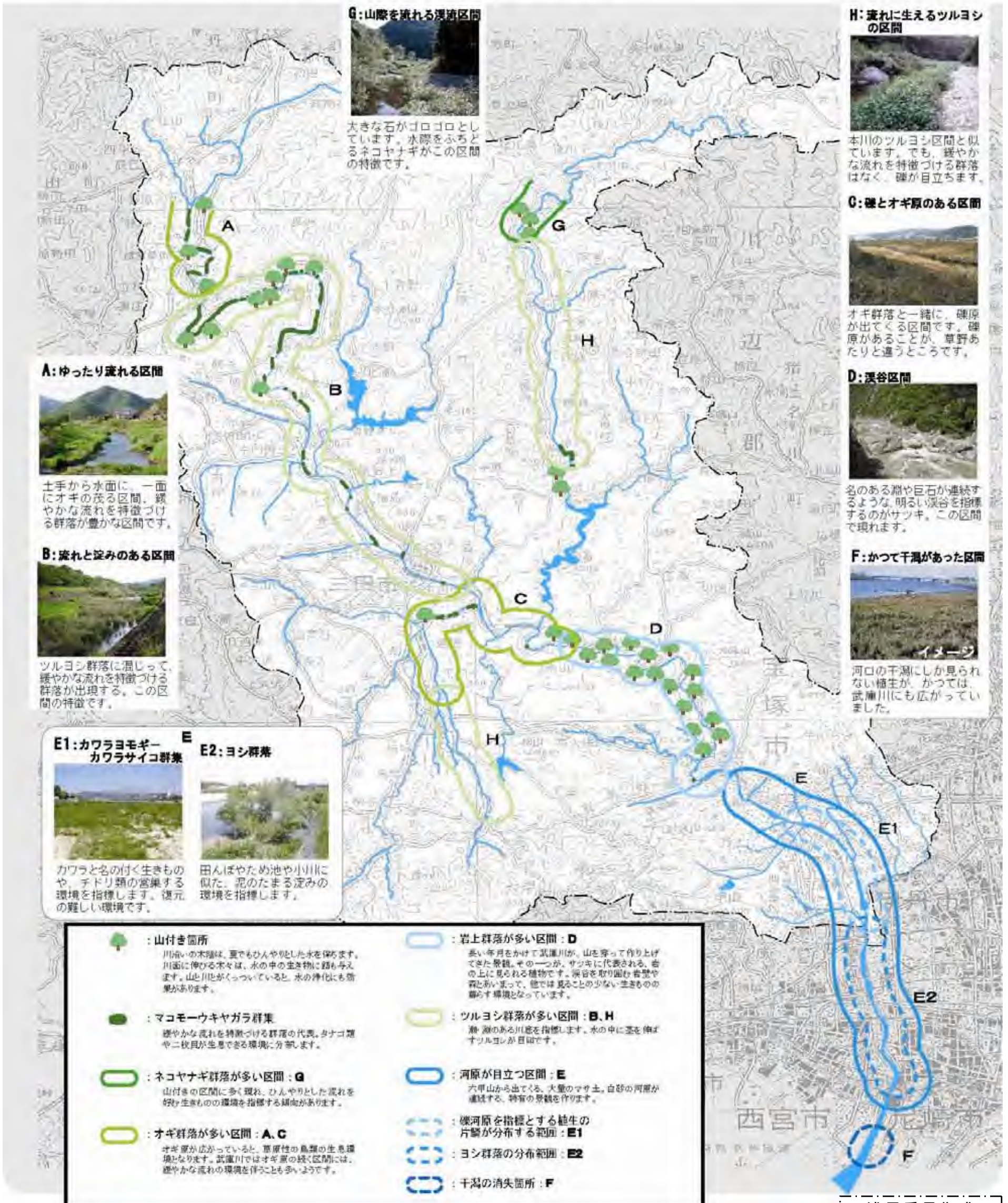


河原に広がる草や木

植生から、川の生き物を予想する。

川の植生

河原に広がる草や木は、川の特徴を知るのに欠かせません。上流から下流に下るにつれて、生えている草木がかわります。場所ごとに違う草木に注目すると、武庫川でめざしたい景観や、生きものとの関わりが見えてきます。



浅見委員作成